

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206789		
法人名	有限会社 クラウド		
事業所名	グループホーム集い		
所在地	秋田県能代市高埜 58-8		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター		
所在地	秋田市将軍野桂町5番5号		
訪問調査日	平成27年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で明るい雰囲気・環境の中で、利用者の皆様が快適で安心した生活が出来るよう心掛けていくと共に、生活の中で利用者の皆様が、ご自身で出来ることを見出し、支援が出来るよう努めたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設以来の理念を基本に、利用者の立場に立った利用者一人ひとりの生き方、能力を尊重し、共に支え合えるように支援している。職員は利用者との日々の会話から、一人ひとりの趣向やこれまでの歩みなどを把握し、日々のケアや介護計画の見直しに役立てている。また、きめ細かく心身の状態を把握して、医師と連携しながら持病の緩和や早期発見に努めるなど、安心した暮らしが継続できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を意識・共有し、利用者様がその人らしく安心して生活を送れる環境を提供できるよう努めている。	全職員がホームの理念を理解しており、家庭的な雰囲気の中で、個々に配慮したサービスが提供できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努力はしているが、周りが商業施設、新興住宅街ということもあり、なかなか交流を持てずにいる。一層の努力が必要と思われる。	日常的な散歩や買い物の際には地域の方と挨拶を交わしたり、地域の祭りでは利用者が見物に出掛け、積極的に地域の方々と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	外部との交友に一層努める必要があると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催はもてていないが、会議で得た情報を職員間で共有し、日々の支援に活かしている。	運営推進会議では、ホームの状況や活動報告を行っており、その都度利用者の家族を含む参加者からの意見等を参考にし、サービスの向上に努めている。	地域とのつながりを広め、効果を高めるためにも、地域に精通した有識者を会議メンバーとして参加できるよう、積極的な働きかけを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「集い」担当者と推進会議等を通じ交流を持ち、相談事があれば協力してもらえる体制をとっている。	市の担当者には事業所の理念、運営や利用者の新たなサービスの要望に関する事など積極的に伝えて助言を得ることもある。サービスの課題解決に向けて、双方が率直な意見交換ができる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書にも身体不拘束を載せ、ご家族の皆様にホームの方針を説明し、理解していただけよう努めている。	身体拘束に当たる行為を職員は理解している。転倒や帰宅願望などにも職員が寄り添い安全を確保しながら利用者が自由に活動し、自由に暮らしてもらえるようケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で虐待防止の意識を共有し、支援にあたっているが、研修参加の機会を積極的に持つ必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	解らない事は市役所の担当者に相談し、支援に活用しているが、学ぶ機会を持つ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等を見ながら十分な説明を行ったあと、質問を聞き、理解していただけるまで話し合うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、あまり上がってこないのが現状。家族が訪問した際意見等聞き出す機会を設けサービス向上に活かすよう努めている。	家族の意向や要望は、面会時・送迎時・訪問時に家族から聴き取り、職員会議において報告検討している。それらの意見等は運営や利用者の介護計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や休憩時間を利用し、話し合いや意見交換の出来る環境はできており、都度代表者に報告しているが、反映されるまで時間はかかる。	毎月の職員会議では、自由な発言ができる雰囲気があり、利用者のケアに関することや業務改善のことなど、職員の意見を引き出し前向きに取り組めるように常に話し合われている。介護上の意見は随時検討し、取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望については、1ヶ月前に希望をとり添えるよう努めている。勤務条件等については、代表者と話し合いが持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等受講出来るよう配慮はするが、勤務を優先してしまいがちになっている。包括支援センターを利用した内部研修を始めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した職員は、情報交換等多少の交流はあるものの、それ以外の職員はほとんど持っていない為、努力が必要と思われる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の不安や困りごとは、職員に気軽に相談できる環境・雰囲気づくりに努めている。また、ご家族様から得た情報を支援に活かすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな事でも相談・話し合いの出来る雰囲気づくりに努めている。訪問時には、話す機会を必ず設け信頼関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と会話し様子を観察することで、出来ること・出来ない事を見出し、家事支援等を通じ、ご本人に、必要とされているという意識を持っていただくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様が疎遠にならないように支援するよう努めている。良好な関係が継続している方々がほとんどだが、ホームにまかせっきりの家族もあり、関係改善に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が自分から人に会いに行く事は難しいが、気軽に尋ねてもらえるような環境づくりに努めている。又、希望があれば通院時等に馴染みの場所を訪れている。	本人や家族から生活歴や馴染みの場所等の把握に努めている。家族の協力を得ながら、馴染みの関係者との継続支援の取り組みがされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等の把握に努め、職員が加わる事で、利用者様同士が関わり合えるよう努めている。トラブルが起きた場合は、利用者同士で解決できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話等で近況を聞いたりし、気軽に相談できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が希望等を気軽に言えるような関係づくりに努めており、ホームのルールを伝え、守りながら、出来る限りご本人の意思を尊重している。	職員は利用者のしぐさや言動などから、思いや意向を読み取り「親身に話を聴く」という意識をもって取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人やご家族様からこれまでの情報を収集し、その内容に基づいた支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様個人の状態を観察すると共に、日々の変化も把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者から希望を聞きつつ、カンファレンスが出来るときはケアマネが中心となり会議を開いているが開けないときは職員個々に利用者の状態を聞きながらカンファレンス用紙にまとめている。また、ご家族に対しては前月に利用者の状態の記入された用紙を送付しご家族からの希望を伺いながらプランを作成している。	普段より職員全員で本人の日常生活に留意し、家族からも面会時や電話等で意見や要望を聞き介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、状況変化があれば、その都度話し合い見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子や状態の変化等を記入する事で情報の共有は出来ている。職員会議等で気づいた事等を話し合い、計画に反映されるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩等、希望時に外出はしてるが、限られた利用者になっているため、改善の必要があると思われる。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に個々の主治医へ通院し受診している。利用者の状態に変化があれば相談し、結果をご家族に報告している。	希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診支援は本人、家族と話し合い対応され、受診後は家族に報告している。症状によって見合った病院を紹介する等の対応をしている。さらに訪問歯科医による歯科診療を受ける体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に利用者の健康状態や変化を相談し、常時連絡が取れる体制になっている。又、定期受診だけでなく、必要時にも受診や往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者に利用者の状態や生活習慣等情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ご家族の希望を伺い話し合いを持つようにしている。ホームで出来ることを納得していただいたうえで、方向性を決め、訪問看護・主治医の往診等で対応支援している。	ホームで対応できる範囲を入居時に説明し、全職員が方針を共有している。利用者や家族の意向をできるだけ尊重し、主治医や医療機関と常に連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習等を実施している。又、マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、その都度いろいろな時間帯を想定し行っている。地域との協力体制は、お願いはしているものの、なかなか取れていないのが現状。	消防署員の指導を得て年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も実施している。訓練マニュアル・スプリンクラー・火災報知器も整備され、火事ぶれ、経路確認等で職員、利用者が慌てることのないようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対し、十分配慮しているつもりだが、共に過ごす時間が長いと遠慮が無くなってしまふ事がある為、気を付ける必要がある。	生活歴を把握し、利用者のペースに合わせ、話をゆったりと聴く努力をしている。一人ひとりの個性を大切にされた対応で、ホーム内は明るく活気に満ちている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に自分の考えや希望が言える雰囲気づくりに努めている。又、自己判断が出来る利用者には、判断を委ねている。自己判断出来ない利用者については、表情等で読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて過ごせるよう配慮している。又、散歩や買い物等の希望があれば、そえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	理美容については定期的に専門職に来所してもらい、身だしなみを整えている。マニキュア等のおしゃれも、一緒に買い物したりして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に食べたい物を聞いたりして献立を作成しているが、何でもいいと言う方が多い。一緒に食事し、会話を持つようにしている。片づけは、個々の状態をみながら職員と一緒にやっている。	利用者との会話から出たメニューが献立に取り組まれることもあり、苦手な食材に関しては代替えのもので対応している。利用者が食事のできる喜びを感じてもらえるよう、役割を考えながら工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し、毎食ごとに記入しているため、職員全員が摂取状況を確認する事ができ把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声を掛け、うがい・歯磨きを行ってもらい、出来ない方にはケアを行っている。夕食後はポリドントを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成しており、個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンやサインを把握している。24時間排泄チェックシートの活用により、こまめにトイレ誘導し、できる限りトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを確認し、便秘になる前に主治医や訪問看護師に相談している。また、毎日体操の時間を設け、負担にならない程度の体操を個々の状態に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	他の業務とも係わってくる為職員の都合で決めざるを得ない場合もあるが、なるべく個々の状態をみて無理強いせずに、1日2～3人ずつ入浴出来るよう対応している。	入浴は、利用者のその日の希望を確認してから支援している。体調不良や気温の変化時にも、職員の見守りや介助で安全な入浴ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を含め一日の睡眠時間や休息状況を把握し、ゆっくり眠れるようしえんしていると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等通院ノートに記入し、職員が確認できるようお薬手帳と共に事務所に置いている。服用後の観察やご本人への言葉かけを行い、副作用等気になる事があれば主治医や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況にあわせた役割を持ってもらうようにし、充実した日々が過ごせるよう支援しているが、特定の利用者に限られてしまう傾向がある為、工夫が必要と考えられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望があれば散歩等出かけられるよう努めているが、限られた利用者になっている。又、家族との外出も限られた利用者になっている。皆で外出する機会を設ける必要がある。	年1回、利用者全員で近隣の公園に車で出掛け、つつじの花を眺め自然を満喫している。また、天候のいい時には近隣を散歩している。家族との外出や利用者の希望する買い物や外食など、家族の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族様の希望に応じており、一部の利用者様はご自分で所持・管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気づくりに努めており、ゆったり過ごせるにしている。又、リビングの壁に季節感のある張物や飾り物をしている。	季節感のある飾り付けをしたり、温度、湿度も管理され、快適に過ごせるように配慮されている。リビングには随所にソファが置かれ、ゆったりとくつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	日中はリビングで過ごされる方が多く、ゆっくりテレビを見たり、気の合った人同士会話を楽しめるよう、座る場所にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、ご家族様に使い慣れたものの必要性を説明し、利用者様が安心して過ごせるような居室づくりに努めている。	居室は、今までの暮らしと違和感がないよう、馴染みの家具や家族の写真等が持ち込まれている。その人らしさを大切にしながら、安心して過ごせる居室の配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の場所を忘れてしまう利用者様もいる為、表示している。安全をたもつ為手すりを付けたり段差のない生活空間にし、居室内の整理・整頓にも努めている。		